

令和 4 年 度 自 己 評 価 表

鳥取県立境高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	価値観が多様化する時代を生き抜く力と豊かな人間性を育成する。 ・多様な生徒に応じた教育課程・クラス編成等により、学力の向上と進路目標を実現する。 ・切磋琢磨し、自己の多様な能力・適性を発見して才能の開花を図る。 ・地域に信頼され、地域の期待に応え、地域を支える学校づくりをすすめる。	今年度の 重点目標	「BIG」に育て境高生 1 部活動の振興を基軸としたチーム境高意識の高揚 2 命の教育（人間教育）を充実 3 主体的に学ぶ姿勢を確立して進路目標を実現 4 学校業務改善の取組を進め、学習指導をはじめとする生徒に対する指導の充実を図る。

年 度 当 初				評 価 結 果			
評価項目	評価の具体項目	現 状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 部活動の振興を基軸としたチーム境高意識の高揚	○「部活動に入ってしっかり頑張った」と回答する生徒の割合が8割を超えること。 ○全国大会出場者が80名、入賞者が5名を超えること。 ○中国大会出場者が200名を超えること。 ○ボランティア活動や地域の活動に参加する生徒の数が増加すること。	○12月生徒アンケート結果「部活動に入ってしっかり頑張った」で「あてはまる」と回答する生徒が71.1%（「だいたいあてはまる」と合わせると84.8%）。 ○全国大会出場者36名（うち入賞者0名）。中国大会出場者数132名（近畿大会含む）。 ○新型コロナウイルス感染症の影響により、大会や練習が制限される中、生徒は積極的に取り組んだ。 ○新型コロナウイルス感染症の影響により、ボランティア参加者は16名（昨年度42名）で減少したが、地域ボランティア活動への生徒の参加意欲は依然高い。 ○スクールプロジェクトを通じて地域の小学生と学習やスポーツの交流を行うことができた。	○文武両道の活力があり地域の誇りとなる普通科高校として存在 ○県トップレベルの実績を持つ部活動を維持育成し、学校内外に活力ある境高を発信 ○地域のボランティア活動への積極的な参加 ○部活動において地域の人材の力を借りたり、生徒が小中学生に学習やスポーツを指導したりすることで地域の信頼を獲得	○学年ごとの目標学習時間（1年2時間以上、2年3時間以上、3年4時間以上）をもっと周知、呼びかける。 ○学習と部活動の両立について、顧問から積極的に指導をする。 ○ボランティア募集情報を生徒に伝え、積極的な参加につなげる。 ○生徒向けボランティア講座を開催する。			
2 命の教育（人間教育）を充実	○「自分や他人を大切にすることができた」と回答する生徒の割合が9割を超えること。 ○「生徒は自分や他人を大切にすることができるようになった」と回答する教員の割合が9割を超えること。 ○「挨拶・服装等けじめのある学校生活ができた」と回答する生徒の割合が8割を超えること。 ○ゴミの分別・減量化について、平成25年度との比較で継続して減量を実現すること。	○アンケート「自分や他人を大切にできる」の回答「あてはまる」71.8%「だいたい当てはまる」27.1% ○QVを用いて生徒の抱える問題の早期発見に努め、学級の実態を把握した。定期的に生徒情報交換会を行うことで組織的な対応に繋げて問題解決にあたった。 ○環境委員を通じて、ゴミの分別の徹底・減量化などの活動を継続して行った。学校周辺清掃は、天候不順により1度だけの実施となった。 ○新型コロナウイルス感染予防のため、「環境教育講演会」は実施出来なかったが、自己理解・他者理解のための講演・研修は11月にリモートで実施した。 ○救命救急講習は、12月に行うことができた。	○生徒一人ひとりの状況を全教職員が把握できているという人権尊重意識の高い職場 ○命教育全体計画に基づいた規範意識・人権意識の高揚 ○挨拶の励行、服装・清掃指導等の徹底 ○生徒が主体となって取り組む学校環境の整備	○多くの生徒が自分や他を大切にできるという問いにポジティブな回答であるが、クラスや部活内など個別の対応をきめ細かく行う必要がある。 ○分掌間の連携により生徒情報を共有し、問題事案に迅速に対応する。 ○今後も生徒の行動・発言、様子を見守り、状況に応じた適切な指導を行う。			
3 学ぶ姿勢を確立して目指す進路を実現	○「進路目標を定め、その実現に向けて家庭学習を進めた」と回答する生徒の割合が5割を超えること。 ○国公立大学現役進学者数が30名を超えること。 ○「授業の内容に興味がわき、理解が深まった」と回答する生徒の割合が8割を超えること。 ○タブレット端末等のICTを活用した生徒主体の授業を8割以上の教員が実践すること。	○「進路目標を定め、その実現に向けて学習を進めることができた」の回答。「あてはまる」34.9%「だいたい当てはまる」44.2%。 ○「探究学習等に主体的に取り組むことができた」「あてはまる」38.4%「だいたい当てはまる」49.3% ○大学入学共通テストの出願率が7割を上回り75.4%であった。 ○D・A・Rナビの校内実施の他、校内に大学を呼んで学部学科研究を行い、生徒の進路意識が高まった。 ○「授業に前向きに取り組み、理解を深めることができた」の回答。「あてはまる」44.4%「だいたいあてはまる」45.8% ○廃考学では主体的に活動ができている生徒もいたが、なかなか自ら行動ができない生徒も多数見受けられた。	○生徒が3年間をとおして進路目標を持ち、その実現に向けて努力する姿の確立 ○キャリア教育全体計画に基づいた明確な進路目標を設定 ○「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を養うため、廃考学を充実・発展 ○1人1台端末を用いた授業研究会並びに授業参観週間での各教科代表による公開授業の定着	○共通テストの出願率は年々高まっているが、国公立大学合格者数とつながっていないため、他の指標（偏差値、人数など）を数値目標に掲げた方がよい。 ○安易に進路決定するのではなく、より高い目標を掲げて努力するよう指導する。 ○授業を中心とした学習指導を継続していく。自学の習慣を身につけさせ、家庭学習を定着させる。また、テスト前にも集中して取り組むよう指導を続ける。学習室の開放を行う。 ○境考学では生徒に対する一層の教職員からの声かけや指導が必要。			
4 学校業務改善の取組	○行事や委員会等を抜本的に見直す。 ○長時間勤務者の解消	○時間外業務80時間超勤務者は0名、45時間以上80時間以下勤務者はのべ28名と前年15名から大幅に増加したが、特定の教職員に偏っている。 ○行事や部活動、会議の見直しをして業務の負担を減らそうとはしているが、まだ不十分である。 ○3年生の面接指導・小論文指導は全教員で分担して取り組めた。 ○週明けテストや8限自学習講義は従前の通り実施した。	○時間外業務の上限が、月45時間、年360時間を超えないよう遵守 ○休業日、活動時間を設定した活動方針の全部活動への徹底	○早めに管理職から面談等を実施し、時間外勤務時間の削減を図る。 ○運営委員会等の設定時間、開催回数の見直しが必要。 ○休業日、活動時間を設定した活動方針の全部活動への徹底			

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：変化の兆し D：まだ不十分 E：目標・方策の見直し
【100%】 【80%程度】 【60%程度】 【40%程度】 【30%以下】